

# 民具同好会 活動を開始

黒崎町民具同好会は、今年最初の活動を五月二十九日(金)、金巻公民館で行いました。同会は昭和四十六年に発足し、現在、会員は約六十名でわらじ、かんじき、飾り俵、干支(えと)などの民具を製作しています。

民具同好会は、以前に大和デパートで展示即売会を催したこともあり、会長の山際五郎さんは、「今年は、新潟で展示会をやる予定で」と言っています。

質が硬く、不足していること。今回、使ったわらは月岡からとりよせたものだそうです。今後の活動は、月一回の会合を中心に夏には青田廻りをやってわらを確保するそうですが、活発な活動が期待されます。



# 今夜はジルのリズムの夜

五月、六月の毎週水曜日の夜、中央公民館で、「社交ダンス講習会」が開かれています。

五月二十七日(水)は、第三回目の講習日でジルの練習が始まりました。ジルバはステップが難しく、最初は足がうまく動かないようでしたが、慣れるにしたがって軽快な音楽のリズムに呼吸も合い始めました。

うちよつとがんばってほしいところです。今回からダンスを始めた水島康子さん(寺地)は、「社交ダンスと聞くとなかなか気がしませんが、実際はとっても楽しいですよ」。また、浅妻ゆう子さん(大野)は、「前にやっていたのですが、この機会にもう一度やろうと思う」とのことでした。貴重な男性の一人、豊田吉一さん(木場)は、「男が少ないので、女性の方はダンスさん同伴でくればいいと思うんですけどね」と笑っていました。



# 栄養教室開く

近年、住民の健康状態は高血圧、心臓病等の循環器疾患、糖尿病などの代謝性疾患が増加傾向にあります。特に栄養の不適切な摂取や運動不足による肥満、貧血などが多く、問題となっています。このような現状から、地域に密着した食生活改善の推進母体となる地区組織の育成が必要と思われ、そのため、保健所と市町村の共催で昭和五十四年から五十六年の間に管内十二市町村で栄養教室を実施し、住民の健康増進に努めています。

今年度は、黒崎町と西川町で栄養教室が開催され、本町では保健委員に食生活改善委員を兼ねてもらい、住民と行政のパイプ役として受講してもらいます。

そして、公衆衛生、栄養、食品衛生、家庭経済と食費、薬の正しい使用方法、献立と調理や今までの保健委員活動などの広い知識を学ばうと、四十時間の年間計画が立てられています。五月十一日(月)の開講式には、五十六名もの多くの受講者が参加し、講義のメモをとりながら熱心に受講していました。

受講生には、来年三月の受講終了後、終了証書が交付され、町の健康づくり推進事業に協力して、地域の人々の食生活改善の助けをしてもらいます。



# ゴミを捨てなごい！ —中ノ口左岸の空ビン・空カンを一掃—

昨年、中ノ口川左岸(金巻、木場川前)の竹ヤブを伐採した所、中から大量の空カン・空ビンなどが出てきたため、町衛生委員会では、五月二十五日、金巻地区の衛生委員の協力を得て、これを一掃しました。

この多くは、ドライバーなどが投げ捨てたものと思われ、おおよそ三キロメートルの間を、二十人の手で一個一個回収しました。草や水溜りなどで作業は、思



## 言葉遣いの いろいろ お礼の言い方

感謝の気持ちは、率直に心をこめて表現しましょう。

「ありがとう」「ありがどう」「ございます」「おそれいります」「これはどうも」「すみません」

相手や事柄に応じて、丁寧に言うにも、簡単な表現の場合にもいろいろな言い方があります。

「このたびは結構なお祝いを頂きまして、ありがとうございます。先日はたいへんお世話になりました。おかげさまで、楽しい休日を通すごうことができました。子供たちも大喜びでした。」

などと、感謝する理由を付け加えて言うのが普通です。

通り一遍、お義理にあいさつをしたような印象を与えるのは避けませんが、あまり丁寧なお礼を言おうとして、おかげさになってしまうのも不自然なもので、こころが、呼吸の難しいところ。

お礼の手紙はできるだけ早く出すのが礼儀でもあり、また書きやすいものですね。電話でお礼を言う場合も同じです。本人が不在だったら、とりあえず伝言を頼んで一刻も早くお礼の気持ちを伝えておくのもよいでしょう。

道を歩いていて「もしもし、財布が落ちましたよ」などと教えてもらったような場合、とっさのことなので「あつ……」と言っただけでお礼を言い忘れることがよくありますね。気をつけましょう。



# 子供の 水遊び

▼中之口川で遊ぶ子供たち

六月、八月は子供の水の事故が目だつて増える時期です。子供の水の事故は、この時期に限らず一年中起こっていますが、六月、八月がとくに多く、同じ時期の交通事故による死者を大きく上回っています。

子供は、水遊びが大好きです。その反面、水の怖さを知りません。そのため、親がちょっと目を離したスキに、とりかえしのつかない悲しい事故に結びつくことが多いのです。

子供の水の事故は保護者の責任と心得、ふだんから子供によく注意するとともに、水の事故から尊い生命を守るために、次のような点に十分気をつけましょう。

▼子供たちだけで水泳や水遊びに行かないよう、ふだんから言い

かせておきましょう。

▼危険な水辺で遊んでいる子供を見かけたら声をかけ、安全な場所へ遊ばせるようにしましょう。

▼雨降りのあとなど川や用水が増水しているときは、子供を近づけないよう特に注意しましょう。

▼自宅周辺百メートルくらいまでの所(幼児の活動範囲)に、危険な所がないか調べておきましょう。

▼海水浴などに行つたときは、子供が迷子にならないよう気をつけましょう。水の事故に結びつくことが多いのです。

